



花 育 情 報



☆花や緑に関する情報をお届けします。

<2月のお花> ツバキ (ヤブツバキ)



ツバキ科 ツバキ属
学 名・・・Camellia japonica
開花期・・・2月～3月
原産地・・・日本
花言葉・・・「控えめな素晴らしさ」
「気取らない優美さ」

日本の代表花

ツバキは江戸時代から庶民に親しまれる、冬の代表的な花木です。日本では古くから常緑の植物を神聖化する文化があり、正月の門松として用いられるマツや神事には欠かせないサカキなどがそうです。ツバキも同様に常緑で冬でも青々と葉を茂らせていることから神社・寺に植えられています。また、邪を払う木として家の境に植えられたりしています。

新潟の県木「ユキツバキ」

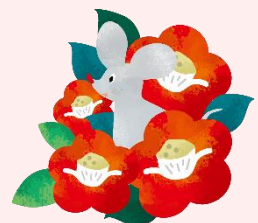
新潟市出身の演歌歌手、小林幸子さんの代表曲でも有名な「雪椿」は新潟県阿賀町の麒麟山の標木をもとに命名されたツバキの仲間です。

背が低く雪の下になってもよいように枝は粘り強く折れにくい。花はおしべが筒状にくっついておらず、葉の縁の歯(キヅ)が目立つなどの点がふつうのヤブツバキと違っていています。

新潟を中心に、日本海側の山地に分布しています。

学名は *Camellia rusticana* (カリア ルスティカーナ)

開花期(見ごろ)は3月～4月、まさに雪の重さに耐えて咲くユキツバキですね。





節分ってなに？

本来、字のごとく季節の節目である「立春・立夏・立秋・立冬」のことをいい、年に4回あります。しかし、旧暦では春から新しい年が始まったため、立春の前日の節分(2月3日頃)は大晦日に相当する日。立春の前日の節分が重要視され節分といえはこの日をさすようになったそうです。また、昔は季節に変わり目、年の変わり目には邪気が入りやすいと考えられていたため、さまざまな邪気払い行事が行われていました。その一つが豆まきだったようです。



なぜ豆をまく？

もともと中国の大晦日に行われていた桃ノ木で作った弓矢で射って鬼を追い払う行事が奈良時代に日本に伝わり、平安時代に宮中行事として取り入れられた「豆打ち」の名残りが「豆まき」で江戸時代に庶民に広がったといわれています。鬼は邪気や厄の象徴とされ、目にみえない災害、病、飢饉など人間の想像を超えた恐ろしい出来事は鬼の仕業と考えられおり、それを五穀の中でも穀霊が宿るとされた大豆で追い払うのがよいとされていました。

また、大豆を必ず炒ることで「魔の目を射る」ことになるため炒り豆を使うそうです。



新潟は落花生？！

豆まきも地方によって違います。

豆まきの豆は大豆が基本のようですが、北海道～東北、信越地方では殻付きの落花生をまきます。みなさまのお宅はどうですか？これは雪深い地方では見つけやすいために、という説がありますが、真相は不明です。

また、最近は全国的なものになってきている「恵方巻」。大阪発祥の風習で七福神にちなんだ7種類の具が入った太巻きをその年の恵方をむいて無言で1本食べるというものです。

スーパーやコンビニなどでも手軽に恵方巻を買えるので、広まっているのかもしれませんが。

今年の恵方は**西南西**だそうですよ。

花育情報

検索

花育情報のバックナンバーは新潟市ホームページへ



<発行・問合せ> 新潟市農林水産部 食と花の推進課 食育・花育担当

〒951-8550 新潟市中央区学校町通1番町602番地1 Tel: 025-226-1792 Fax: 025-230-0423

E-mail: shokuhana@city.niigata.lg.jp

【花育情報 no6 2020年2月発行】